

水土里レポート 投稿様式

投稿月日	平成27年7月14日
タイトル	「くわい」の植付けを体験したよ！
水土里レポーター名	水土里ネット福山 佐々田 愛

平成27年6月29日（月）福山市立新涯小学校5年生約130名が、新涯小学校の近くのほ場で「くわい」の植付け体験をしましたので、その様子取材しました。

新涯小学校5年生は、一年を通じて、地域の特産物である「くわい」についての学習に取り組んでおられ、先日は第1弾として、「くわい」の出前授業をされました。

今回は第2弾として、新涯町にある水土里ネット福山の組合員の村上孝之前副理事長のほ場700㎡のうち、300㎡で「くわい」の植付け体験をしました。



新涯小学校の校庭に集まり「くわい」の植付け体験で注意することを5年生全員で「大きな声で挨拶をする」「姿勢と目を向けて話を聞く」「機敏に行動する」と大きな声で復唱し、みんなで学校からほ場まで歩いて移動しました。

ほ場に着くと、村上孝之前副理事長が準備をして待っておられました。みんなで大きな声で挨拶をし、植え方など教えていただくとすぐに植付けを始めました。

「くわい」の苗を4つ選び、それを持って1列約30人ずつ田んぼへ入り、一人4つずつ印の所へ植えていきます。植え終わったら田んぼから出て、用水路からポンプで水を汲み上げて、泥のついた足や手を洗っていました。

田んぼに入る一歩がなかなかでない子ども達。そうっと足を入れた子ども達は歓声をあげながら、植える場所まで歩いていきます。印のところまでくると、みんな真剣な顔で一つずつ丁寧に植えていました。



5年生の中から15名が「くわい委員」になっていて、小学校の校庭でも「くわい」を植えて半年間、成長を観察するそうです。

当日は、福山市の特産物である「くわい」の植付けに、テレビや新聞などの報道機関が多数取材にきておられました。「くわい委員」は5年生を代表して、インタビューを受けていました。



「くわい委員」は、テレビや新聞の取材を受け「くわいをしっかりと育てていきたい。」
「今日植えてみて、これからどんな風に育つのか楽しみになりました。」などと堂々と答えていました。
テレビカメラに向かって答えています！

子ども達に水土里ネット福山から、今回の農業体験をきっかけに農業用水に関心をもってもらい、豪雨などの災害時や日頃の生活のなかで、ため池や水路に対する防災意識を高めてもらおうと、子ども達に農業用水路の防災について話し、福山市上下水道局の災害備蓄用飲料水「ばらのまち福山の水」を配布しました。

当日は、用水路の水をポンプアップし植付け体験をした後のダベ落としで、足や手を洗いました。
とても身近で便利な農業用水路ですが、転落等の事故のないよう、みんなに呼びかけをしました。



今年度、新涯小学校では、ほ場でくわいの植付け体験と校庭のミニたんぼへ植付け、収穫といった昔ながらの手作業による「くわい」栽培の農業体験をします。

水土里ネット福山では、引き続き子ども達の農業体験の様子を取材したいと思います。